社協シンボルマーク

ふれあいネットワーク

曽於市社会福祉協議会情報紙

第74号

令和２年３月13日

手と手

やさしさ100パーセント

画題「春」

メッセージ：「寒い冬に春を待ちわびる気持ちを、ピンクの花に込めて描きました」

末吉町　小迫　妙子　様

主な内容

曽於市社会福祉協議会賛助会員・特別会員について …… Ｐ２
共同募金助成事業報告 …… Ｐ３
歳末たすけあい募金助成事業報告 …… Ｐ４
ボランティア養成講座 …… Ｐ５
校区社会福祉協議会会長会 …… Ｐ６
ボランティア協力校連絡会
サロンで地域いきいき …… Ｐ７
介護保険Q＆A、地域包括支援センターより …… Ｐ８
各種相談窓口のご案内 …… Ｐ９
寄付金品等のご報告 …… Ｐ10

理念　人と人との
つながりを大切に
地域と共に歩む

発行 / 社会福祉法人　曽於市社会福祉協議会
曽於市財部町南俣 504 番地１（財部保健福祉センター内）
TEL:0986-72-0460・0480　FAX:0986-72-0425
E-mail:sohokubu-shakyo@dream.ocn.ne.jp

情報紙「手と手」は、本会のホームページでもご覧になれます。
URL:http://soo-shakyo.or.jp/

この情報紙は、地域住民の皆様からの社会福祉協議会費を財源に発行しています。

社会福祉協議会会員(会費)へのご協力をよろしくお願いします

○社会福祉協議会の会員（会費）とは？

社会福祉協議会（社協）は、社協の使命や趣旨、事業にご賛同いただいた住民や法人・団体に会員として支援をいただきながら運営されている民間の福祉団体（社会福祉法人）です。

社協は、社会福祉法第 109 条に基づき、住民、法人・団体のご参加・ご協力をいただき、地域福祉の推進を図ることを目的としています。民間組織としての「自主性」と、広く住民や社会福祉の関係者、法人・団体に支えられた「公共性」という２つの側面をあわせ持っており、住民が主体となって身近な地域で支え合う仕組みづくりを地域と共に進め、誰もが共に安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進する役割を担っています。

会員よりご協力いただく会費は、社協が地域福祉推進事業を行うための貴重な財源となっています。皆さまには、社協活動や地域福祉活動にご賛同いただき、ぜひ会員としてご支援くださいますようお願いいたします。

曽於市社会福祉協議会の賛助会員と特別会員

曽於市社協の会員は、曽於市に居住する方、曽於市の社会福祉関係機関・団体、曽於市に事務所または事業所を有する団体を対象としています。

賛助会員	特別会員
個人で、年額 1,000 円以上の会費を協力いただける方	年額 1,000 円以上の会費を協力いただける団体、事務所、事業所等

特別会員より

W&W（ウェルアンドウェル）地域福祉・芸術推進合同会社
指定居宅介護支援事業所　ウェル　代表社員　河野　隆男 氏

Q1　社会福祉協議会の特別会員になったきっかけは？

A1　会社名にも「地域福祉」という言葉を使っていますが、地域福祉に関する活動に興味があり、何か社会に貢献ができないかな？と考えたのがきっかけです。寄付をすると、自分自身が「地域に貢献しているな」と感じることができます。その他、ユニセフ等にも積極的に寄付をするようにしています。

Q2　寄付の使い方について要望などありますか？

A2　地域の住民の方々の役に立つような取り組みに使ってほしいです。

Q3　今後の活動について教えてください。

A3　今後は寄付以外にも実際の色々な活動に参加していけたらと考えています。例えば、曽於市の社会福祉大会にボランティアスタッフとして参加したり、私自身、絵を描いたりすることが趣味なのでそれを活かした地域貢献などもできればと考えています。

Q4　最後に一言お願いします。

A4　今までお世話になった人たちに恩返しを。という気持ちで今後も寄付などは積極的に行なっていきたいと思います。

令和元年度共同募金助成事業

曽於市共同募金委員会から助成を受け、次の8つの事業に取り組みました。
平成30年度に寄せられた赤い羽根共同募金が地域で活かされています。**（助成金額4，762，371円）**

①ささえあいネットワーク事業

企業等の協力も得ながら、身近な地域に住む在宅福祉アドバイザー630名が民生委員や地域の方などと連携して1,561名の要援護者を見守りました。

②子育て支援事業

子育て中の親の悩みごとを相談する窓口の紹介やサロン活動の説明を行い、市内の新生児等に紙おむつの贈呈を行いました。

③障がい者支援事業

当事者性を大切にした交流となるよう企画の段階から障害福祉サービス事業所の協力を得て、4回目のレクリエーション大会を実施しました。

④ほっとサービス事業

公的な制度の狭間を埋めるために住民同士の支え合いにより生活支援を行いました。

⑥ふれあい・いきいきサロン事業

身近なところで定期的に集い、楽しいひと時を過ごすサロン活動の支援をしました。

サロン同士の交流や医療機関に所属する専門職の派遣などの活動支援も行い、活動の充実につなげました。

⑦ボランティアバス運行事業

最少催行人員に及ばなかったため、バスは運行せず、災害ボランティアセンター研修会を開催しました。

⑧柔軟・即応サービス事業

生きづらさを抱えた人を支援することの必要性を訴え、身近な地域で支える人材の育成を図りました。

⑤福祉教育及びボランティア活動推進事業

市内すべての小中高校をボランティア協力校に指定し、学校と地域を巻き込みながら福祉教育の推進を図りました。

また、映画を通じた多世代の交流により、思いやりの気持ちを育むことができました。

令和元年度歳末たすけあい募金助成事業

昨年度寄せられた歳末たすけあい募金を財源に、年末年始に地域福祉活動に取り組む団体へ活動費の助成を行いました。（団体数12団体　助成金額530，000円）

財部校区北俣社会福祉協議会
財部北俣地区ふれあい交流会

岩北校区社会福祉協議会
餅つき大会とふれあい交流

東部校区社会福祉協議会
未来へと続く東部の和

南部校区社会福祉協議会
新春 地域高齢者と子供のふれ愛交流会

高岡校区社会福祉協議会
高岡校区ふれあい交流会

諏訪校区社会福祉協議会
地域ふれあい餅つき大会およびしめ縄つくり

光神校区社会福祉協議会
地域住民と音楽を通して絆を深めよう

深川校区社会福祉協議会
活気あふれる深川の集い（クリスマス会）

岩川校区社会福祉協議会
クリスマス会(世代間交流)つながれ！輪･和･(いわが)わ～！

恒吉校区社会福祉協議会
高齢者ゴミ出しサポート＆歳末ゴミ拾い大作戦

黄地区親子会
黄地区クリスマスサロン会

月野校区社会福祉協議会
月野校区ふれあい秋のつどい

ボランティア養成講座
（４回シリーズ）（令和２年１月10日から開催）

現在、多くの方が地域での活動やボランティアに取り組んでいますが、地域には周りとの関わりを持つのが難しい方や支援の目が向きづらい方もいらっしゃいます。

ボランティアとして、より広い視点を持ち、より多くの方にボランティアの思いが届けられるように学び、実際の活動に活かしていただく機会としました。

【受講者の声】

「傾聴」という言葉にひかれ講座に参加しました。

１回目は曽於市社協の出水さんによる受講生も参加型の講話で、自分の番が回ってくるので緊張感をもって、でも楽しく学べました。

２回目は精神科の神田先生の講話です。『事実はなぜ人の意見を変えられないのか』相手の状況、感情が変化することを待つ者にとって、待つことは難しいことだけど大切なことだとヒントをいただきました。

３回目はグループワーク。サロンや体操教室など色々な活動の話が聞けました。皆さま、楽しそうに生き生きしていらっしゃいました。

４回目は藤尾弁護士の日常的な法律問題についてでした。借金問題、相続、介護、成年後見制度などわかりやすく楽しくお話してくださいました。悩むのは相談の後で！と言われておりました。皆さんも悩む前に専門家に相談するとよいと思います。

養成講座に参加し、とても楽しかったです。「来週は会えないですね」と別れを惜しむことでした。社協、講師、受講生、皆さんに感謝！

八木　順子（受講者）

災害ボランティアセンター研修会
（令和２年２月19日開催）

行政職員や民生委員、災害ボランティアセンター運営支援者養成講習修了者、ほっとサービス協力会員など防災に関わる方や助け合いの活動にご協力いただいている30名程の参加がありました。

鹿児島県社会福祉協議会ボランティアセンター所長辻健一氏より「災害ボランティアセンターの役割と取組」について、鹿児島県防災専門アドバイザーの津田盛吉氏より、「自主防災組織の避難訓練と関係機関との連携の取り方」について講話をいただき、参加者同士で曽於市地域の防災に必要なものを話し合うグループワークを行いました。

月野校区の竪山民生委員からは「今年は大雨による災害があり、自分たちの地域でもこれから取り組んでいきたいと思っていたところであった。防災訓練など、実際に取り組まれている話が聞けてありがたかった。良い機会として今回の研修で得たものを地域で活用していきたい」という意見が出されました。

ひきこもりについて学ぶ
（校区社会福祉協議会会長会　令和２年２月４日開催）

「ひきこもり」と聞くとどんなこと、どんな人を思い浮かべますか？

今回は、自身のひきこもりの体験を活かして支援している、そお地区障がい者等基幹相談支援センターの宮田一真氏から「ひきこもり体験とピアサポート活動」と題して講話をいただきました。

ひきこもりの人のその背景や経緯は人それぞれ。その方の思いや気持ちに寄り添う気持ちが大事です。焦らず長い目で信頼関係を築き、関わりを持ち続けることの大切さを学ぶ機会となりました。

子どもたちの育ちに地域が関われること
（第２回ボランティア協力校連絡会　令和２年２月 20 日開催）

大隅中学校と月野小学校に本年度の取組みを報告していただきました。

大隅中学校１年生は例年通りなら、総合的な学習の時間で郷土について学びますが、生徒たちの成長を思うと、自分と違う立場の方や他者を理解しようとする意欲と認め合う態度を養うこと、障がいがある方への理解を深めること、社会における自己の役割について考えることが必要だと考えたことから、今年は福祉をテーマに取り組みました。学習後の生徒たちには少しずつ変化が見られ、街で障がいのある方を見かけたら何と声かけをしようか真剣に悩む姿が見られたり、友人同士意見が合わない時でも相手の事をより深く理解しようという様子が見られるようになりました。

月野小学校からは夏休み期間に取り組んだサマーボランティア体験活動「地域で守る命の講座」の報告がありました。７月の大雨があり、この体験活動を開催する以前から災害について学校側の対応を検討されてきていました。当日は避難所でもある月野地区公民館で、小学生や保護者と地域住民がいっしょに危険箇所の点検や炊き出し訓練をしました。

両校とも、児童・生徒の心の教育の必要性や地域一体となった災害への対応など課題を明確にし、地域を巻き込んだ取組をされていました。

今後も学校と家庭だけではなく、地域もいっしょに子どもを育てていくということを意識しながら、福祉教育を推進していきます。

サロンで地域いきいき

ふれあいいきいきサロン 新町サロンほほえみ（末吉地域）

２年前の自治会の総会において、みんなで楽しく話をしたりする場所を作ってほしいとの要望があり、社会福祉協議会へ相談に行き、平成 30 年５月にスタートしました。

公民館がないため、自宅を開放して月１回行っています。毎回 15 名程の方々が集まって楽しい時間を共有しています。毎回、来月は何をしましょうか？と相談しながら、季節感を取り入れた七夕飾り、そうめん流し、クリスマス会、新年会、ひな祭りなど色々考えることもとても楽しみです。

これからも、「サロンに来てよかった」と思っていただけるよう、参加される皆様と共に楽しみたいと思います。

代表　福地　文子

第2回 ふれあい・いきいきサロン（ミニデイ・体操教室）の連絡会（地域別）開催（令和２年１月15日・16日・17日開催）

本年度２回目の連絡会は、運営上の課題をどのように解消していくか、グループワークを中心に行いました。良かったことや効果については、「高齢者、一人暮らしの安否確認につながる」「おしゃべりをするだけでも楽しい」悩みの解消アイデアでは、「男性の参加は夫婦での参加を進めてはどうか」「車での送迎支援を考えてみてはどうか」など意見が出されました。

また、末吉地区では、買い物支援のサービスを利用したサロンから以下の活動発表もありました。

サロンむかえでは、二年前から買い物支援を年間計画の中に入れ、大隅方面へ皆で買い物に行っています。日程と行き先、人数を社会福祉協議会へ申し込み、支援してくださる社会福祉法人のバスが当日迎えに来られます。車中では歌を歌ったり、お話をしたり遠足気分です。お店では、カートいっぱいの買い物をする方もいます。ある日は、それぞれ好みのお弁当を買い、２時間位の買い物を楽しみました。バスを降りてサロン会場でお弁当を食べながら、「来年もみんなと行けるように元気でいないとね。楽しかったね」との声も聞かれました。

足腰が弱くなると一人では行けない場所も多くなるので、この買い物支援を引き続き利用させていただきながら、サロンの皆さんと楽しい思い出づくりをしていきたいと思います。

サロンむかえ　代表　松下 淳子

特別編

介護保険に関するQ&A

～認知症サポーターについて教えてください～

質問 ラジオで「認知症サポーター」の言葉を聞きましたが、この「認知症サポーター」とは何のことですか？

回答 「認知症サポーター」とは、地域住民が認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族に対して温かい目で見守っていただく、地域のサポーターのことを言います。特別なことをするのではなく、認知症の理解者として、認知症の人が地域で困っている時に声をかけたり、そのご家族にねぎらいの言葉をかけたりして、ともに地域で暮らし続けるための応援者になります。

質問 認知症の専門職ではないですが、住民の私でも、この「認知症サポーター」になれるのですか？

回答 認知症サポーター養成講座は、小学生から大人まで年齢や職種にかかわらず講座を受講することができ、地域住民の誰でもサポーターになることができます。

講座修了後に、認知症の理解者として地域でサポートする意思を示す、「オレンジリング」（右図）が修了者に配布されます。

オレンジリング

質問 認知症の人は、これからも増えていくのですか？

回答 認知症高齢者の数は年々増加しています。５年後の令和７年（2025 年）には、全国の認知症有病者数が 700 万人を超え、「65 歳以上の５人に１人が認知症」との推計が厚労省から報告されています。曽於市は、高齢化率 40％を超える超高齢社会の地域であり、今後さらに認知症の人も増えることから、地域の中に認知症の理解者を増やし、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていくことが必要です。

質問 認知症サポーター養成講座は、いつ、どこで開催されますか？　また、受講料が必要ですか？

回答 認知症サポーター養成講座は、一定の研修を修了した者が講師となり、各地域や企業等に出向いて養成講座を行います。これまでも、自治会単位や高齢者いきいきサロン、体操教室、集いの場、その他、曽於市内の官公庁や企業の職員を対象に、随時、開催しています。講座の時間として 60 分～ 90 分の時間が必要です。また、講座では、テキストとオレンジリングが各自に配布されますが、受講料は一切かかりません。

質問 地域の会で、認知症サポーター養成講座を開催したいと思いますが、どうすればよいですか？

回答 講座の開催には、曽於市あてに事前の申請が必要となります。開催内容のほか、この講座に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

問い合わせ先：曽於市介護福祉課地域支援係（電話 0986-76-8807）
曽於市社会福祉協議会本所　（電話 0986-72-0460）

※参考・引用資料：認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び地域でささえよう」全国キャラバン・メイト連絡協議会発行

心配ごと相談所開設のお知らせ

日常生活のことでお困りのことがありましたら、ご相談ください。

開設日　毎月第2、第4木曜日　9時30分から正午まで

		3月26日	4月9日	4月23日	5月14日
財　部	相談員	柳田	棚木原	柳田	橋本
	場　所	財部保健福祉センター			
末　吉	相談員	山内	竹石	原田	吉田
	場　所	そお生きいき健康センター			
大　隅	相談員	鍋山	大村	津曲	佐伯
	場　所	大隅弥五郎伝説の里			

ひとりで悩まないで 弁護士による無料福祉相談窓口

ひまわりの会による無料福祉相談窓口

○相談日時及び会場：

会場	財部保健福祉センター	そお生きいき健康センター	大隅弥五郎伝説の里
相談日時	4月16日（木） 13時から16時まで	5月21日（木） 13時から16時まで	6月18日（木） 13時から16時まで

○相談料：**無料**です。（相談者からはいただいておりません）

※1回につき相談時間は30分以内

○申込・受付方法：**事前に予約が必要です。**

ひまわりの会　事務局　代表弁護士　山口　政幸

☎ 099-227-0041（受付：平日9時～17時）　鹿児島市山下町12番17号2階

藤尾法律事務所による無料法律相談会

○相談日時及び会場：

会場	財部保健福祉センター	大隅弥五郎伝説の里
相談日時	4月14日（火）、5月12日（火） 13時から15時まで	3月17日（火）、4月21日（火）、5月19日（火） 18時から20時まで

○相談料：**無料**です。（相談者からはいただいておりません）

※1回につき相談時間は30分以内

○申込・受付方法：**できるだけ事前に予約してください。**

弁護士法人 大隅広域ディフェンダー　藤尾法律事務所　末吉支所

☎ 0986-51-9830　曽於市末吉町本町1丁目4番地5

たくさんの善意に感謝いたします。

本会では、この善意を地域の皆様の福祉向上のために大切に使わせていただきます。
なお、本紙への掲載につきましては、寄付者の承諾を得てご希望どおりに寄付者名簿を掲載しております。

香典返し寄付金（敬称略）（令和２年１月１日～２月29日）

財部地区

上田　ミヨ子　　田平
福留　ナミ　　田平
小笹　俊昭　　今別府
中武　岩雄　　新田
住吉　　勉　　浦興禅寺
野田　俊弘　　正部
中尾　美津子　　浦興禅寺
西村　さえ子　　西村
大休寺　隆子
池田　　孝　　寺田西
古山　愛子　　川内中
中野　福夫　　口弁木
前原　義明　　橋野坂之上
前田　房子　　深川西前
古川　義文　　高松
肝付　重彦　　棚木
匿名　２件

末吉地区

大迫　カエ子　　大路
脇田　一郎　　石之脇
鎌田　キサ子　　下高松
柿内　タミ
福元　エキ子　　湯之尻

大隅地区

徳永　ツルエ　　八合原
柴田　　廣　　中園
永田　ヨリ　　吉井
中迫　哲郎　　あけぼの
荻迫　ノミ　　野町
匿名　　１件

一般寄付金品（敬称略）
（令和２年１月１日～２月29日）

財部地区

文化協会社交ダンス部
10,000円

末吉地区

末吉方面隊慈善打球大会一同
2,448円

ひだまりカフェの開催について

「同じ病気の人と話がしてみたい…」という脳血管疾患を患いその後遺症に悩んでおられる方の声をきっかけに、脳血管疾患患者当事者の会の立ち上げを目指し、４名の当事者の方を含め、地域リハ広域支援センターの理学療法士、相談支援専門員、地域福祉コーディネーター、市・地域包括支援センター職員等11名の企画メンバーで３回の企画会議を行ないました。地域で暮らす当事者の方が何を知りたいか、何を必要としているのか検討を重ね、当事者の方やその家族がお互いに想いを語り共感できる場、情報交換や交流できる場を作りたいという思いから「日だまりカフェ」を開催することとなりました。

※お茶を飲みながらゆっくりと話してみませんか？日だまりのような暖かい場をつくっていけたらと考えています。どなたでも参加できますので興味のある方は、曽於市地域包括支援センターへご連絡ください。

☆連絡先☆　電話：0986-76-8824　FAX：0986-28-8140　担当 坂元・永山

編集後記

ゴミ出しの日の朝の事、今は慣れたゴミの分別ですが、１年前末吉町に引っ越した当初は大変だなぁと思ったものです。

本会へ入職を機に曽於市に引っ越し、新生活に期待と不安でいっぱいだったことを覚えています。忙しくも、とても充実しており「あっ」という間に過ぎた１年でした。

ゴミステーションでは、自治会長さんを中心に地域の係の方が仕分けの点検をされています。「おはようございます」と声かけあってゴミを出す風景。これも小さな地域のつながりなのでしょうか。まだ、新米曽於市民の私ですが、微力ながらも地域の活動に積極的に参加し地域の方々とのつながりを深めたいと思います。　H.S